

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名 高梨正勝

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

基礎専門科目について病理学の基礎から現在注目されている疾患までの幅広い知識や情報を理解する能力を持つ学生を育てることを目標とし、病因を中心とした疾患の発症機構を知ることで、必要な検査や治療法を理解することを目指す。

基礎科学は専門科目を履修する上での土台となるために完全な理解を目指す。卒業研究や病理学特論では病因学を中心とした興味のある疾患に関する内容を探求する能力をもたせることと、研究を通じて専門性を高めるような知識を習得することを目的とする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
病理学I	臨床検査技術学科	必修	2	約85
病理学II	臨床検査技術学科	必修	2	約85
基礎科学演習実習（分担）	臨床検査技術学科	必修	1	約80
病理検査学実習	臨床検査技術学科	必修	3	約80
病理学実習	臨床検査技術学科	必修	2	約85
組織学・同演習	臨床検査技術学科	必修	1	約80
総合臨床検査学（分担）	臨床検査技術学科	必修	4	約80
卒論指導	臨床検査技術学科	選択	2～4	30
病理学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	5

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

臨床検査は幅広い知識と正確な検査結果が求められる。現在の臨床検査分野では検査の自動化や将来AIの導入が想定される中で、時代に対応可能な技術や知識を身につけることが必要と考えている。これには基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能を活用することが可能な能力の習得にある。病理学の基となる正常と疾患との差が検査や治療法の指標となるため病気について詳しい知識の習得が必須であると考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

時代に即した情報や知識を提供するために、専門紙などから最新の情報を講義で紹介し、詳しく説明するようにしている。特に病理学においては分子生物学的な手法を応用した分子病理学的な診断が導入され始め、原理や状況についての紹介を行っている。卒業後の進路で、この分野に関連する検査を担当する場合の土台となることを目的に取り組んでいる。また、それぞれの疾患の発症に関する原理を説明し、その疾患に必要な検査や治療法、その後の経過に必要な検査について紹介し、各臓器の代表的な疾患について知識を習得可能なように講義を行っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

各単元の内容理解を自己評価するため、講義資料を基に作成した補助教材をAzamoodle上に公開し、受講生には自宅学習および授業内容の整理を目的とした演習問題に取り組めるようにしている。

(2) ICTの教育活用

有

講義資料をデジタル化しAzamoodleに掲載することで、予習・メモ・復習に活用できるようにしている。スライドや図、イラスト、写真も資料として掲示し、必要な情報をすぐ確認可能なようにしている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義は冒頭で概要を示し、学生の注意を引く。スライドとAzaMoodle資料は同じ内容で、重要部分は色分けしてその場でマークできるようにしている。基本だけでなく現場の最新情報も取り入れている。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義終了時には、当該授業内容に関連する過去の国家試験問題を即座に解答させることで、知識の定着と応用力の向上を図っている。さらに、自宅学習で復習や内容の整理に活用できるよう、課題はAzaMoodleで配信している。中間・期末の2回の試験で全単元から出題し、学生の理解度を確認している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

各講義の単元ごとに課題を作成し、AzaMoodle上で公開した。これにより、受講者は講義内容の復習および要点整理が可能となり、試験前には再度内容を確認しながら効果的に学習を進めることができるよう配慮した。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義終了後や休憩時間中に来室した学生には、直接その場で回答および助言を行った。加えて、電子メールによる質問については、同様に電子メールを用いて対応している。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義終了時には、講義内容と関連する国家試験の過去問題を提示し、学生がその場で回答する機会を設け、挙手による理解度の確認を行った。また、同様に講義内容の重要な部分についても、質疑応答を通じて即座に挙手を求め、学生の理解状況を評価した。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

4年生には、病理学における過去の国家試験問題の出題傾向を精査し、出題頻度の高い領域から復習授業を実施するとともに、国家試験対策として関連問題の出題及び詳細な解答・解説を行っている。また、2学年に対しては、講義内で該当単元に関連する過去の国家試験問題を取り上げ、講義中に出題・解答・解説を行うことで、国家試験の重要性と身近さを認識させる教育的アプローチを採用している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価に関して、講義に用いるスライド内の図表およびイラストへ詳細な解説を付加した。また、講義内容が複雑であるため、主要なポイントを抽出し、体系的かつ簡潔に説明するよう努めた。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

講義内容の要点に重点を置いた授業により、情報伝達の効率性は向上したものの、内容本来の魅力が十分に伝わらず、学生の興味関心が低下している様子が見受けられた。一方で、総括的な復習時間を設けて内容の再確認を行った結果、試験における平均点の向上が認められた。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

講義内容を要点ごとに整理した簡易資料を作成し、主要事項が視覚的に把握しやすく、迅速な復習が可能な教材となるよう努める。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

各学生の理解度を適切に評価することが不可欠であると認識しており、講義終了時に課題を課すとともに、講義開始時には前回内容の確認テストを実施し、その把握に努める予定である。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

科目内の單元ごとの課題や小試験の得点は学生の理解度を示しており、各学生の科目全体の習熟度を把握可能である。理解が不十分な部分を早めに再学習させることで、苦手意識が芽生える前に対策ができ、最終学年の進級試験や国家試験の合格者増加にもつながると考えている。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

関連する分野に関しては積極的に参加を心掛けている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

基本的な部分の理解度を高めるため、個別の理解度の解析と指導を行い国家試験合格へ導く。入学生を含めた個人の基礎教科の理解度の解析と個別の対応による知識の習得。

先端科学への理解と興味を抱くような情報の提供と、研究指導を考えている。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。